

県南地域感染症情報 定期112号

～県南地域感染制御ネットワーク支援事業～

麻しん・風しんにならない！

～麻しん・風しんの発生状況～

麻しんは、平成27年3月27日付けで世界保健機関西太平洋地域事務局により、日本が麻しんの排除状態にあると認定されました。しかし、海外には麻しんが流行している国が多く、海外からの訪問者や海外渡航者が、麻しんウイルスを国内に持ち込む事例が全国で散見されています。

一方、風しんは令和元年には全国で2,298件の患者が報告されました。

【麻しんの報告数（単位：件）】

	H28	H29	H30	R1	R2(※)
県南地域	0	0	10	0	0
福島県	0	0	10	2	0
全国	165	186	279	744	13

※R2年のデータは未確定です。

【風しんの報告数（単位：件）】

	H28	H29	H30	R1	R2(※)
県南地域	0	0	1	2	0
福島県	1	0	9	18	0
全国	126	91	2941	2298	100

麻しん・風しんの定期予防接種対象者は、予防接種を受けるようお願いします。



定期接種の対象年齢になったら 早めにワクチン接種を！！

～麻しん～

症状は、発熱や咳、鼻水、発疹等です。肺炎や中耳炎を合併しやすく、年齢にかかわらず命に関わる重篤な感染症です。

感染力が非常に強く、**空気感染もします**ので手洗い、マスク着用のみで予防はできません。

しかし、**予防接種で予防可能な感染症**です。

1回の予防接種で免疫のつく割合は約95%ですが、時間とともに免疫が減少していき、麻しんにかかる可能性があります。ワクチンの効果を高めるため**2回接種が必要**です。

麻しんの免疫がない集団に1名の麻しん患者がいたとすると、12～14名が感染するといわれています。
(インフルエンザでは1～2名、風しんでは5～7名)

～風しん～

症状は、発熱や発疹、リンパ節の腫れ等です。まれに、脳炎や血小板減少性紫斑病を合併することもあり、特に成人で発症した場合、小児より重症化することがあります。

また、妊婦が妊娠初期に風しんにかかると、お腹の中の赤ちゃんにも感染し、赤ちゃんが病気（**先天性風しん症候群**）を持って生まれる可能性があります。

感染力が強く、**飛沫感染しますが**、麻しんと同様に**予防接種で予防可能**です。

【第1期】
接種期間：1歳～2歳未満

【第2期】
接種期間：5歳～7歳未満
(小学校就学前の1年間)



※（麻しん・風しん混合ワクチン） ■ 定期接種の期間 □ 任意接種可能な期間

★ 医療機関の皆様へのお願い ★

- 1 麻しん、風しんを診断した場合は直ちに保健所に届出をお願いします。
- 2 発熱や発疹を呈する患者が受診した際には、予防接種歴を確認するなど麻しん、風しんを意識した診療をお願いします。
- 3 発熱や発疹を呈する患者が受診した際は、麻しん、風しんの感染力の強さに鑑みた院内感染対策の実施をお願いします。

☆1962年4月2日～1979年4月1日生まれの男性の皆様☆

△今まで公的予防接種を受ける機会がなく、風しんの感染を拡大させてしまう可能性がある方々です。

風しんから、あなた自身と周りの人をまもるために風しんに対する抵抗力を確認・獲得しましょう。

1962(昭和37)年4月2日～1979(昭和54)年4月1日生まれの男性の方は、令和4年3月31日までの間に限り、風しんの抗体検査及び予防接種が原則無料となります。

☎問い合わせ先：お住まいの市町村

発行日：令和3年11月30日

発行元：福島県県南保健所生活衛生部医療薬事課

FAX：0248-23-1252

Mail：kansen_kennan@pref.fukushima.lg.jp

※「県南地域感染症情報」に関する御意見、御質問等はFAXまたはメールでお願いします。